

第5次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物
The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan

アカヒゲ

Larvivora komadori (Temminck, 1835)

関伸一（国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所）

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会 鳥類分科会



令和8（2026）年3月



特に文献内で別途指定がない限り、この文献はクリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

種毎の解説を引用する場合には以下のように記述してください。

引用表示：関伸一，2026. アカヒゲ. 環境省（編）第5次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物，pp. 875-880.

Citation: Seki, S., 2026. *Larvivora komadori* (Temminck, 1835). In: Ministry of the Environment, Japan (ed.), *The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan*, pp. 875-880.

アカヒゲ

Larvivora komadori (Temminck, 1835)

カテゴリー判定結果		情報不足 (DD)			③④
基準 A: データ不足	基準 B: データ不足	基準 C: データ不足	基準 D: データ不足	基準 E: —	
環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧カテゴリーに移行し得る属性（具体的には次の要素）を有しているが、生息状況をはじめとしてカテゴリーを判定するに足る情報が得られていない種。 ③生物地理上、孤立した分布特性を有する（分布域がごく限られた固有種等）。 【判断理由】 繁殖地が相互に遺伝子流動の少ない 4 つの集団（男女群島、トカラ列島、奄美大島周辺島嶼、徳之島）に分断されており、それぞれの集団の分布域がごく限られている。 ④生活史の一部又は全部で特殊な環境条件を必要としている。 【判断理由】 男女群島から奄美群島の常緑広葉樹林で繁殖するが、越冬地は主に先島諸島で、両地域の間で渡りをするための中継地も必要であり、本種の保全のためには南西諸島全域の一体的な生息地保全が必要である。					
評価分科会： 鳥類分科会					

概要

男女群島、トカラ列島、奄美大島とその周辺島嶼、徳之島で繁殖している（関 2012）。本種の一部集団は渡り鳥で、先島諸島で越冬する個体が多い。外来捕食者による影響が懸念されている。

基礎情報

【形態】

ヒタキ科の小鳥で、大きさはスズメ大。背面は橙色、腹部は白色で、オスでは顔から胸にかけて黒く、メスでは腹部の羽毛の縁が灰色で鱗模様に見える。本種は、近縁のホントウアカヒゲ *Larvivora namiyei* にくらべて背面・腹面とも淡色で、オスでは嘴上部の黒色部の幅が広めで脇腹に黒斑がある点が異なる。体重はオス 23.0 ± 1.3 g、メス 24.4 ± 2.4 g、自然翼長はオス 75.5 ± 1.6 mm、メス 72.5 ± 1.6 mm（オス N=433、メス N=364 の平均±SD；関 2012）。

【生活史】

縄張りを形成し、通常は一夫一妻で繁殖する。枯葉、ツル、樹皮などを用いた椀状の巣を、リュウキュウチクや常緑広葉樹の樹上、樹洞や幹の割れ目など多様な場所にかける。巣箱をはじめとする人工構造物も良く利用する。一腹卵数は 1-5 卵で平均 3 卵（関 2012）。

【生息環境】

下層植生の発達した常緑広葉樹林で生息密度が高いが、二次林や集落の緑地、トカラ列島ではリュウキュウチク林の一部にも生息する（関 2012）。

生息環境区分：	【陸域_中標高地 低標高地】森林 【陸域_平地部】森林，農業用水路，小河川
国土地域区分：	(1) 奥山自然地域，(7) 島嶼地域

【分布域】

男女群島、トカラ列島、奄美大島とその周辺島嶼、徳之島で繁殖している（Seki 2023）。薩南諸島では繁殖期の記録があるが、確実な繁殖記録はない（福留ら 2022、関 2010）。沖縄島には近縁種のホントウアカヒゲが生息するが、ホントウアカヒゲは留鳥であり、本種と繁殖分布域は重ならない。トカラ列島で繁殖する集団は渡り鳥で、冬期にはほぼすべての個体が繁殖地から渡去する。奄美大島と徳之島では留鳥の個体と渡り鳥の個体が混在する。渡り鳥の個体は、宮古島から与那国島にかけての先島諸島地域で越冬している（Seki and Ogura 2007）。先島諸島には過去に本種の亜種ウスアカヒゲ *Larvivora komadori subrufus* が分布したとの見解もあるが、信頼できる根拠はない（関 2005）。日本鳥類目録改訂第 8 版においては亜種のウスアカヒゲ *Larvivora komadori subrufus* は新参異名とされ、本種は単型種とされた（日本鳥学会 2024）。夏から秋にかけては薩南諸島や大隅半島でも観察記録が少なくない（福留ら 2022、関 2008）。

現在の生息状況

【分布域の現況】

トカラ列島南部で 2000 年代に繁殖期の分布が新たに確認された地点があるが（関ほか 2011）、繁殖分布域の大きな変化はない。

【生息地の現況】

琉球列島とその周辺域内での渡り鳥で、周年の生息域が広範囲にわたり、それぞれ利用される季節が異なるため、地域によって状況は異なっている。

【個体数の現況】

トカラ列島では高密度に生息している地域もあるが、その他の地域の生息密度は高くない。1980 年には、さえずり個体密度と生息地面積から個体数推定が試みられた（環境庁 1981）。男女群島で約 1,000 羽、奄美大島で約 21,000-37,500 羽、徳之島で約 18,800-21,300 羽と報告されているが、信頼性は必ずしも高くない。それ以降の個体数変化は調べられていないが、2000 年代の生息密度は 1980 年の記録ほど高くない地域が多かった（Sugimura et al. 2003）。外来捕食者のファイリマングースの駆除事業が行われた奄美大島では、ファイリマングースの減少後に本種の分布の拡大が報告されているが、個体数への効果は確認されていない（小高ほか 2022）。

存続を脅かす要因

奄美大島では外来種のファイリマングースが本種の捕食者となっていたが（小高 2009）、近年ではファイリマングースの駆除が行われた地域で本種の確認地点の増加が報告されている（小高ほか 2022）。トカラ列島、奄美大島、徳之島に外来捕食者のノネコが生息し、本種へのノネコの影響は十分には調べられていない。トカラ列島では域外から移入されたニホンイタチが広域に生息し、ニホンイタチの捕食によると推測される営巣失敗例が多い（関 2001）。奄美諸島、トカラ列島の一部の森林には野生化したヤギが生息し、ヤギの採食による下層植生の衰退や樹木の更新阻害により本種の生息環境の悪化が懸念される。本種の分布域における常緑広葉樹林の伐採や開発の拡大は、生息地面積の減少につながる可能性がある。古来より飼い鳥として捕獲されてきたが、現在でも違法飼育の影響があるかは不明である。

要因の区分：	（過去）	捕食（外来種による）
	（現在）	捕食（外来種による）、その他動物食害

特記事項

本種とホントウアカヒゲとは分布域の近接した姉妹種ではあるが遺伝的分化の程度が大きく（Seki et al. 2007）、日本鳥類目録改訂第 8 版においてはそれぞれ独立種とされた（日本鳥学会 2024）。部分的な渡り鳥であるため、繁殖地と越冬地、および渡りの途中の中継地において生息地を連続的に保全することが重要である。今回のカテゴリー変更は本種の現状の変化というよりは、評価方法の変更（評価基準の整理と定性評価の廃止）によるところが大きい。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アカヒゲ	<i>Luscinia komadori komadori</i>	VU
第4次 2019:	アカヒゲ	<i>Luscinia komadori komadori</i>	VU
第4次 2018:	アカヒゲ	<i>Luscinia komadori komadori</i>	VU
第4次 2017:	アカヒゲ	<i>Luscinia komadori komadori</i>	VU
第4次 2015:	アカヒゲ	<i>Erithacus komadori komadori</i>	VU
第4次:	アカヒゲ	<i>Erithacus komadori komadori</i>	VU
第3次:	アカヒゲ	<i>Erithacus komadori komadori</i>	VU
第2次:	アカヒゲ	<i>Erithacus komadori komadori</i>	VU
第1次:	アカヒゲ	<i>Erithacus komadori komadori</i>	V

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和6年度末時点）

【長崎県】絶滅危惧Ⅱ類(VU), 【鹿児島県】絶滅危惧Ⅱ類, 【沖縄県】絶滅危惧Ⅱ類(VU)

保護に係る法令指定状況（令和7年度末時点）

国内希少野生動植物種, 国指定天然記念物, 鳥獣保護管理法

参考文献

- 福留千穂・尾上和久・上田恵介, 2022. 屋久島でアカヒゲは繁殖しているのか μm —8・9 月期の記録が語るもの—. *Strix*, 38: 115-120.
- 環境庁, 1981. 昭和 55 年度特殊鳥類調査報告書. 環境庁, 東京. 131pp.
- 小高信彦・久高将和・髙原建二・佐藤大樹, 2009. 沖縄島北部やんばる地域における森林性動物の地上利用パターンとジャワマングース *Herpestes javanicus* の侵入に対する脆弱性について. *日本鳥学会誌*, 58: 28-45.
- 小高信彦ほか, 2022. 奄美大島, 徳之島, 沖縄島北部における鳥類の繁殖分布と世界自然遺産のゾーニング. *九州森林研究*, 75: 63-70.
- 日本鳥学会, 2024. 日本鳥類目録第改訂第 8 版. 日本鳥学会, 東京.
- 関伸一, 2001. 南西諸島北部における希少鳥類の生息状況—トカラ列島中之島の事例—. *森林防疫*, 50: 228-232.
- 関伸一, 2005. ウスアカヒゲ. *森林技術*, 756: 32-33.
- 関伸一, 2008. 繁殖分布の周辺域におけるアカヒゲの生息状況 (I): 大隅諸島黒島および大隅半島木場岳・稲尾岳における繁殖期の生息状況. *九州森林研究*, 61: 105-107.
- 関伸一, 2010. 繁殖分布の周辺域におけるアカヒゲの生息状況 (II): 屋久島および種子島における繁殖期の生息状況. *九州森林研究*, 63: 95-96.
- 関伸一・所崎聡・溝口文男・高木慎介・仲村昇・ファーガス クリスタル, 2011. トカラ列島の鳥類相. *森林総合研究所研究報告*, 10: 183-229.
- 関伸一, 2012. 生態図鑑アカヒゲ. *バードリサーチニュース*, 9(1): 4-5.

- Seki, S. I. and T. Ogura, 2007. Breeding origins of migrating Ryukyu Robins *Erithacus komadori* inferred from mitochondrial control region sequences. *Ornithological Science*, 6: 21-27.
- Seki, S. I., M. Sakanashi, N. Kawaji and N. Kotaka, 2007. Phylogeography of the Ryukyu Robin (*Erithacus komadori*): population subdivision in land-bridge islands in relation to the shift in migratory habit. *Molecular Ecology*, 16: 101-113.
- Seki, S. I., 2023. Fine-scale nuclear genetic structuring within the Ryukyu Robin, a species complex endemic to the Ryukyu Archipelago. *Ornithological Science*, 22: 21-27.
- Sugimura, K., F. Yamada and A. Miyamoto, 2003. Population trend, habitat change and conservation of the unique wildlife species on Amami Island, Japan. *Global Environmental Research*, 7: 79-90.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

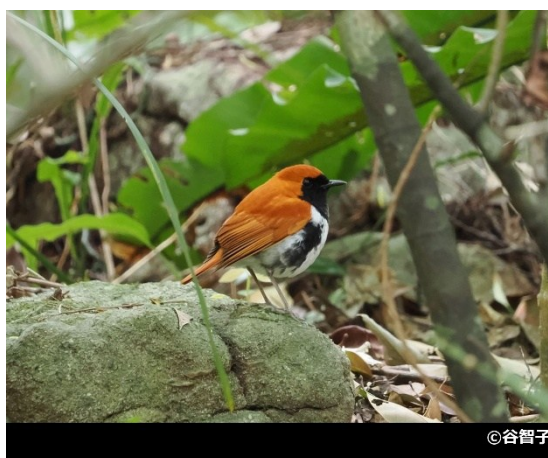
Larvivora komadori has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Larvivora komadori* is listed as DD under criteria ③④.

The species that possesses attributes which could easily shift it into the threatened categories due to changes in environmental conditions (specifically, the following criteria), yet lacks sufficient data, including habitat status, to determine its category.

③Distribution is biogeographically isolated (e.g., endemic species confined to a narrow range).

④Specialized habitats are required at some or all stages of its life history.

Habitat types:	【Terrestrial/Freshwater area_Mid-altitude area, Low-altitude area】 Forest 【Terrestrial/Freshwater area_Plain】 Forest, Agricultural ditch, Small river
Threat types:	Predation (by alien species), Other animal feeding damage
Law designation status for conservation	Nationally rare species of wild fauna and flora. Nationally Designated Natural Monument. Wildlife Protection, Control, and Hunting Management Act.



執筆者: 関伸一 (国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所)
Author: Shin-ichi Seki

公表年月：2026 年 3 月